

団体名	NPO法人マイムマイム	NPO法人なまずの里福祉会	公益社団法人日本てんかん協会 埼玉県支部
事業名	感謝祭	WRAP【元気回復行動プラン】・「自己管理法にチャレンジしてみよう」	専門職向け学習会
目的	事業を通して、精神障害者への理解を深めるとともに、活動への協力者を募ること、及び同じ悩みの方との出会いの機会となること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不調に陥った時の対処法について、薬だけでなく自分の方法で管理し、元気に自分らしく人生を送るきっかけを作る。</li> <li>・講座の中において自らが主導となる場面を経験することで自信を得る。日々の生活に活かせる方法を皆と共有する事で共感を得て、自らの糧としていく。</li> <li>・事業所のメンバーもサポーターとして参加し、ピアとしての繋がりを感じ自信につながる。</li> <li>・障害福祉サービス事業所で作ったお茶菓子などの提供→当事者が一体となって講座を盛り上げていく雰囲気づくりを行う（他事業所への声掛けのきっかけづくりとなる）</li> </ul>	てんかんはありふれた病気で大抵は小児期に発症し、長期の治療を必要とします。てんかんの正しい理解と対処法の普及を目的として、市内の教育、保育、福祉や保健医療に携わる方々に広く参加をお願いしたいため。
実施状況	<p>○感謝祭の実施 日時：平成29年11月27日(日) 時間：12時～14時30分 場所：大類館 参加者：45名 内容：天候不順の為、収穫した野菜に泥が付いており、予定の一日前に野菜を洗い乾かすことになった。当日は、他の行事と重なり、広報活動の成果が出なかったが、45名の方に参加していただいた。汁、抹茶をおいしく食べていただくことができました。また、市出演者の方々も皆様を楽しませて下さった。販売の野菜も多くの方に購入していただいた。なお、当事者の青年2名が積極的に手伝って下さったことは、嬉しいことであった。</p>	<p>○WRAP（元気回復行動プラン）・自己管理法にチャレンジしてみよう講座 日時：平成28年10月16日 13時30分～16時00分 場所：埼玉県吉川市市民交流センターおあしす 参加者：20名 参加費：500円 内容：講座・グループワーク 講師 増川 ねてる氏 佐々木 理恵氏 サポーター 法人スタッフ 5名 法人メンバー 2名</p>	<p>○専門職向け学習会 日時：平成28年6月29日 13時30分～16時30分 場所：浦和コミュニティーセンター 参加者：115名 (保育園及び幼稚園47名、小学校21名、中学校15名、高等学校23名、特別支援学校職員その他9名) 内容：てんかんの基礎的な理解のため、てんかんの発作分類、病因からの分類、治療の基本となる薬の服薬の問題、服用忘れの問題など日常的なことから、行事や親へのコミュニケーションの取り方や教師側の対応を含め、現場で実際遭遇する問題点を具体的にまた、専門的に説明いただいた。  講師 渡辺雅子氏 (新宿神経クリニック)</p>
事業の成果	ひきこもり、精神障害者の啓発として開催し、理解のある方、支援者が参加くださった。しかし、ご家族への働きかけが難しく、今後の課題である。まずは継続し、地域での理解を広げて、当事者、ご家族へとつなげたい。このたび、精神保健福祉協会への助成申請を機に、坂戸保健所、マロウドの会、NPO法人ゆずり葉の会の後援をいただくことができた。また、参加下さった方からの励ましの言葉は、私どもの活動の力となった。	<p>○講座参加者の感想 ・当事者→「自分に気分転換する方法など何もないと思っていたが、自分にもあることに気付いた」「この場を通じて自分と向き合い、他の人の気分転換法を知るきっかけとなった」「普段人前で発言することはなかったが、自主的に発言できた(周りの雰囲気がすべてを受け止めてくれる安心感があった)」等 ・支援者→「SSTより参加しやすかった」「自分で活用し修正していきける継続性のあるものと感じた」「WRAPによって薬が減っていく効果を感じた」「障害の有無に関係なく自分もやろうと思える」 ○講座を通じて ・様々な場面において使える対処法を利用することで、自分を知り、希望を持って生活することにつながると感じた。 ・支援者も一緒に体験することができた。ワークを取り入れ理解が深まった。 ・ピアの方が中心となって行政や地域とつながる機会ができた。</p>	<p>実際の患者さんの発作の様々なタイプをわかりやすく説明していただくことによって、より身近にてんかんの医学的。基本的な知識を学ぶことができました。 参加者から「てんかんについてよく知らなかった」「大変勉強になった」との感想、また「てんかんに対する認識が変わった」との意見もありました。現場にて、勉強会の内容を同僚に話をした先生方から、「有り難うございます。来年も学習会を行ってください」とよかった声もありました。</p>